

再生医療の将来市場規模予測

国内外の再生医療の将来市場規模予測

○ 再生医療の市場規模は、2050年には国内市場2.5兆円、世界市場38兆円となり、今後我が国にとって非常に大きな経済効果が期待される。

再生医療の将来市場規模予測(国内)



<国内市場規模の算出方法>

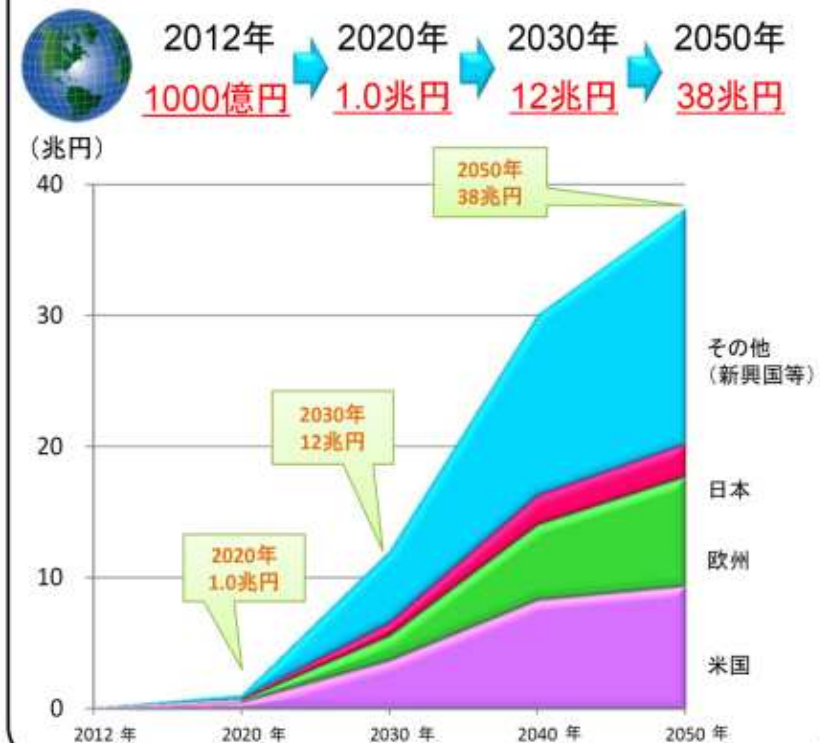
「再生医療の市場規模」=「患者数※1」×「患者1人当たりにかかる費用※2」

※1「患者数」=「国内の潜在患者数」×「再生医療の適用率」

※2「患者1人当たりにかかる費用」

=「再生医療製品・加工品の単価」+「再生医療に係る医療費(手技料等)」

再生医療の将来市場規模予測(世界)



<世界市場規模の算出方法>

「各国の市場規模」=「現在の当該国の再生医療市場※1」×「再生医療の普及度※2」

※1「患者数」×「患者1人当たりにかかる費用」(国内市場の算出と同様)

※2 人口、所得(物価)、開発品目・既存市場、研究開発予算等から推定

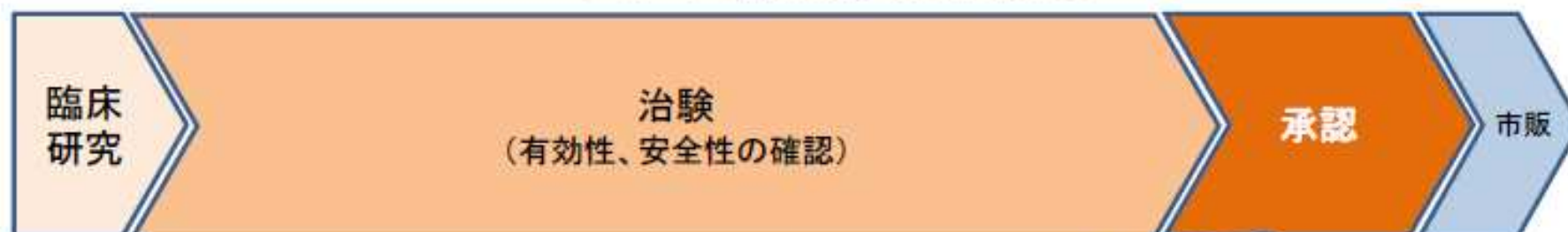
再生医療分野における新たな制度的枠組み

条件付き、期限付き承認制度

＜再生医療等製品に従来の承認制度を適用する場合の問題点＞

人・動物の細胞や遺伝子を用いることから、不均質となるため、有効性を確認するためのデータの収集・評価に長時間を要する。

【従来の承認までの道筋】

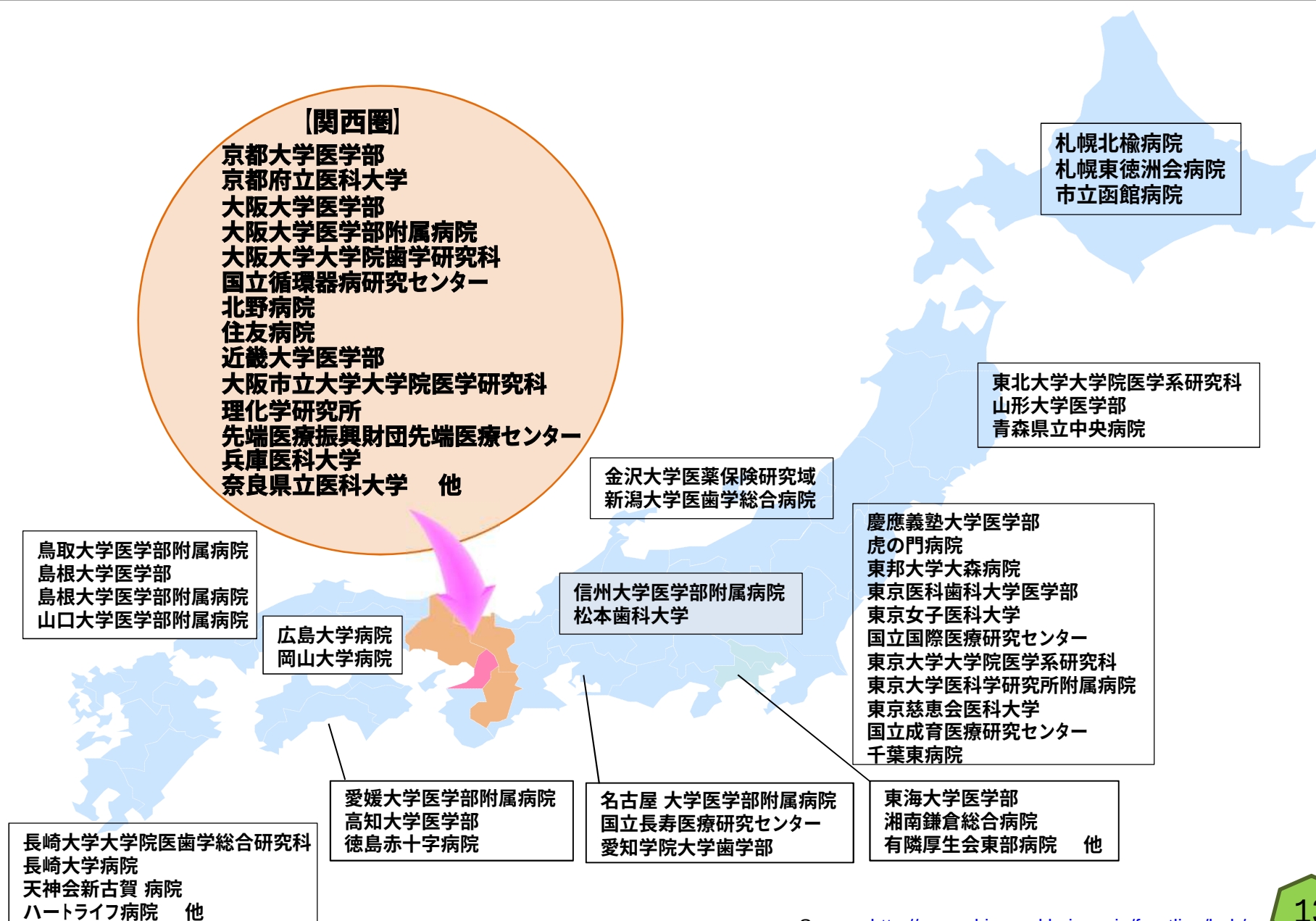


【再生医療等製品の早期の実用化に対応した承認制度】



- ・有効性については、一定数の限られた症例から、従来より短期間で有効性を推定。
- ・安全性については、急性期の副作用等は短期間で評価を行うことが可能。

実施中のヒト幹細胞を用いた臨床研究実施施設



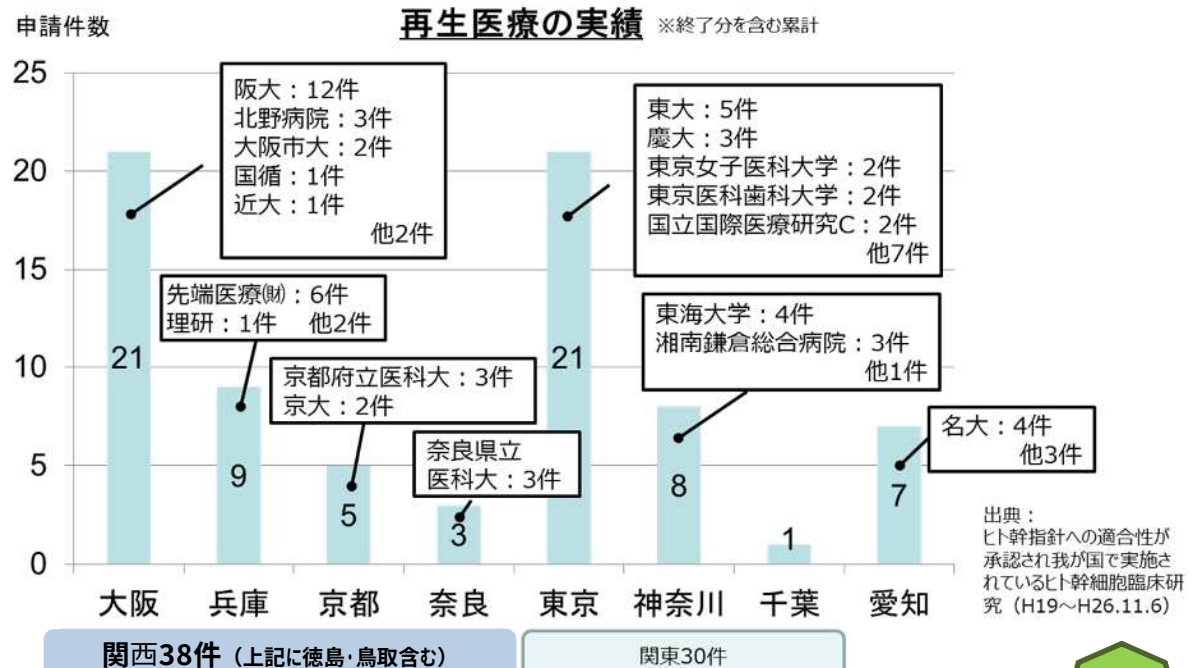
Source: <http://www.skip.med.keio.ac.jp/frontline/hub/>

再生医療臨床研究実績

- 日本医療研究開発機構（AMED）の再生医療実用化研究事業に採択を受けた研究数で、大阪は東京に次ぐ。また関西では関東に肉薄
- 従来あったヒト幹指針に基づき承認された再生医療臨床研究数では関西は関東を凌ぐ実績。中でも大阪大学は群を抜いている

AMEDの再生医療実用化研究事業採択研究数

地域	都道府県	件数
関西（25）	大阪府	13
	兵庫県	6
	京都府	6
	他	2
関東（30）	東京都	24
	神奈川県	2
	埼玉県	1
	栃木県	2
	茨城県	1
	他	2
中部（2）	愛知県	2
その他地域（11）		11



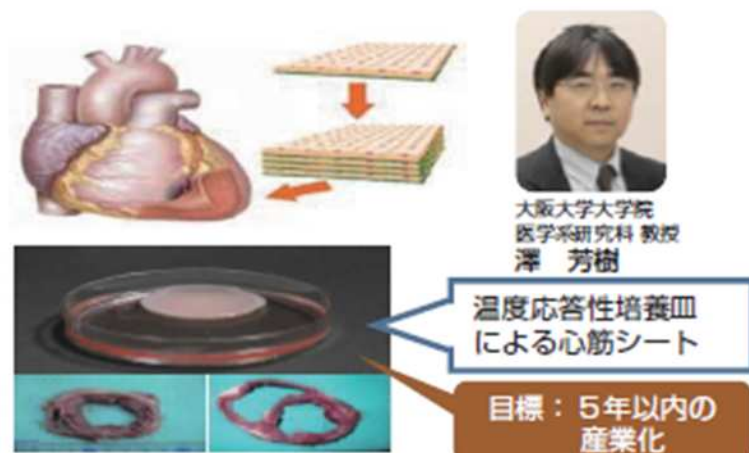
出典：AMED WEBサイト
より作成(H28.9時点)

世界を先導するiPS細胞研究の取組

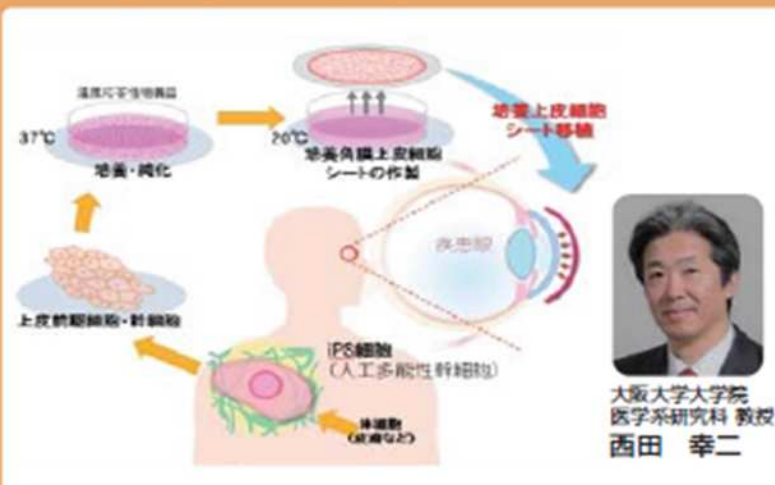
① 再生医療用iPS細胞ストック【京都大学】



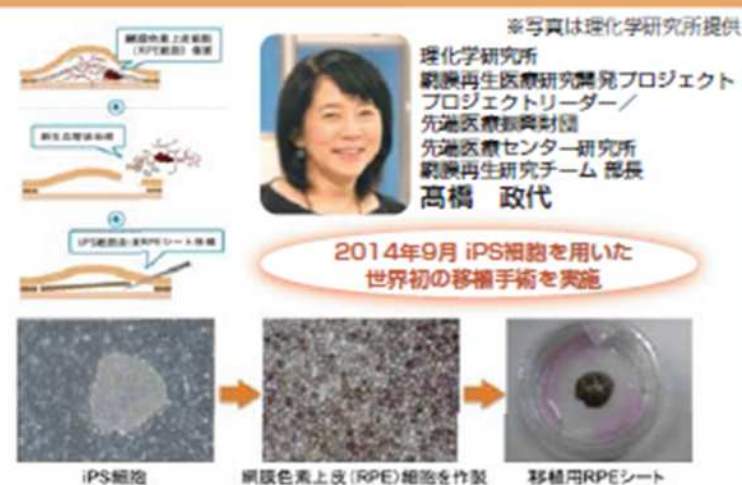
② iPS細胞による心筋再生医療【大阪大学等】



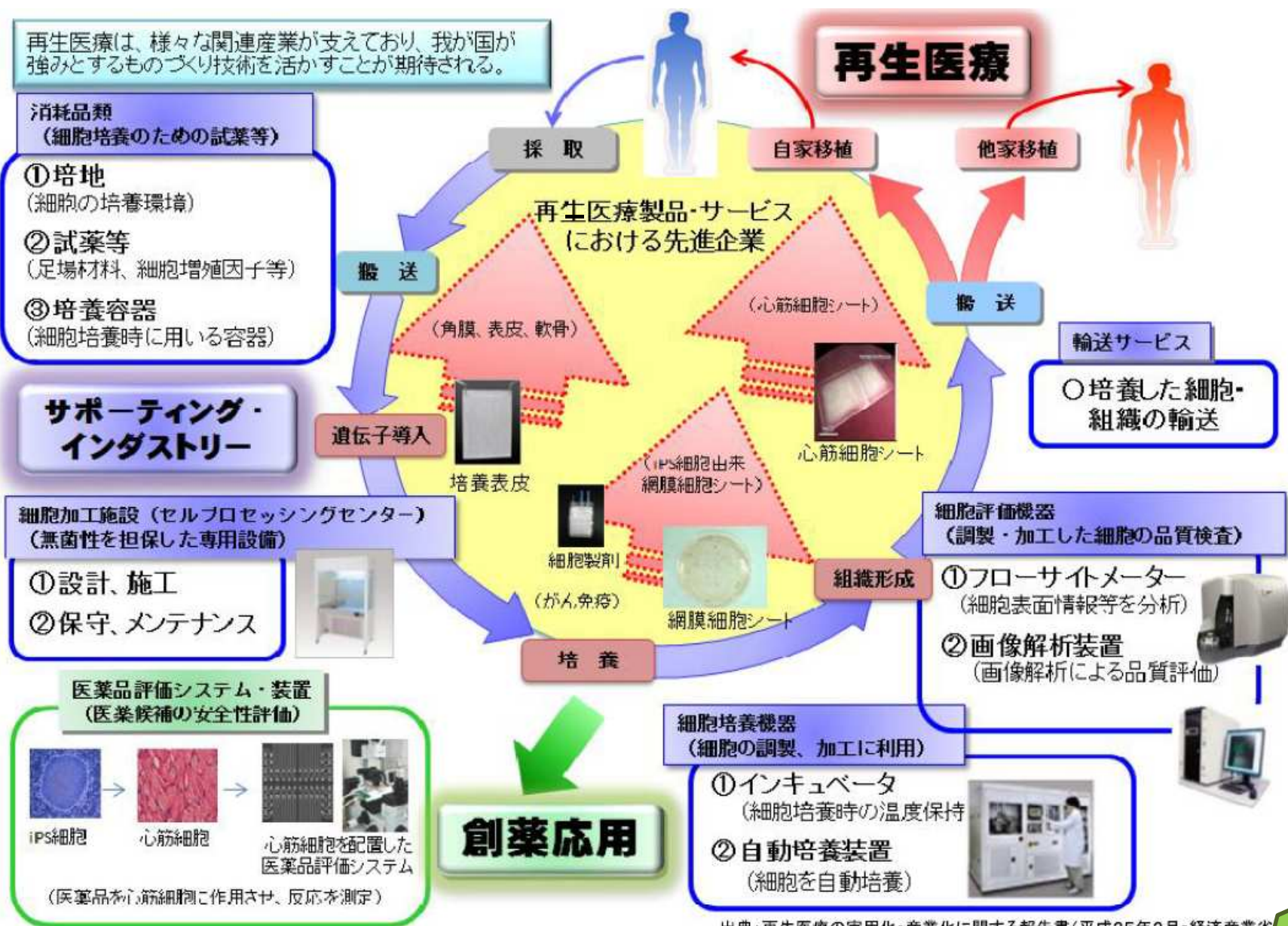
③ ヒトiPS細胞を用いた自家角膜上皮再生治療法【大阪大学等】



④ iPS細胞による網膜再生医療【理化学研究所等】



再生医療関連産業とバリューチェーンのイメージ



出典：再生医療の実用化・産業化に関する報告書(平成25年2月・経済産業省)

再生医療に関与する企業 (大阪地域創造ファンドによる支援事業者)

株式会社 日本医化器械製作所

再生医療研究を加速させる三次元細胞
組織観察培養器の開発

柴又運輸 株式会社

iPS細胞等の輸送システ
ム開発

株式会社 レイメイ

ヒトiPS細胞からの眼細胞分化誘導
等再生医療に関わる大学発ベン
チャー企業の基盤づくり

大阪地域創造
ファンドによる
支援事業者

上田製袋 株式会社

赤外線レーザーを利用し
たiPS細胞組織凍結保存
用滅菌樹脂袋の製作技術
開発

株式会社 ジェノミックス

脳梗塞後の中枢神経再生関連遺
伝子発現に及ぼす再生誘導物質
の作用に関する研究開発

株式会社 ジェイテックコーポレーション

細胞観察機能を有したiPS細胞用自動培養装置の
開発

まとめ

- 大阪・関西がもつポテンシャルを活かし、
ここ中之島において産学官が連携し、
再生医療の国際拠点の形成に取り組むことにより、
将来的に大きな経済効果が期待される市場において、
大阪・関西がイニシアチブを発揮できると確信

大阪のライフサイエンス産業振興に関する最新情報はコチラから

大阪バイオヘッドクォーター

検索

メールマガジン「大阪バイオ・ヘッドクォーターからのお知らせ」のご登録もいただけます